

## それから 1 年半

昨年 2020 年元旦に次のように書いた。

今年は、写真のような年になるのではと考えている。写真は昨年 9 月 10 日の早朝に自宅ベランダから撮った。「定点観測」している生駒山のほうを眺めると、今まで見たことのないような朝焼けの空が一面に広がっていた。なんとも言えない朝焼けだ。

2020 年という年は、時代の変化を予感させる。猛暑の夏は東京オリンピック・パラリンピックに、日本中が沸いていることだろう。その前後に、とりわけ政治の世界で大きな動きがありそうだ。ひとつは国政レベルだ。長期にわたる安倍政権が、このまま続くとは考えにくい。「桜疑惑」はもちろん、数々の失態、悪政を重ねながら逃げ回っている安倍首相。こんな政治の転換を予感させる。いや転換しないと、この国は立ち上がれなくなってしまう。



もうひとつの動きとして、わがまち大阪の政治である。何回もレポートしてきたように、大阪市を廃止して 4 特別区に分割再編する「都」構想をめぐって、11 月上旬には住民投票が行われる。5 年前の住民投票では、名古屋からメッセージやエールを送った。こんどは大阪市民の一人として、大阪市廃止により甚大な影響を受ける当事者として、住民投票に立ち向かわなくてはならない。

年のはじめから、政治談議になってしまった。こんな 2020 年をどう生きていくか。また歳を重ねるわけで、まずは健康を心がけたい。いろいろ慢性的な病を抱えているが、医者にも定期的に通いながら、なんとか悪化するのをくいとめたい。それには毎日 8000 歩を心がけるなど、体を適度に「こき」使い、生活のリズムを保っていくことだ。早く寝て早く起き、毎朝レポートを書く。そして図書館通いを続ける。これが退職後の生活スタイルだ。

それから 1 年半。コロナ禍の猛威がつづき、経済社会に深刻な影響を及ぼしている。東京五輪・パラリンピックは 1 年延期されたが、コロナ禍にもかかわらず、3 週間後に開催が強行されようとしている。住民投票で大阪市存続は決まったが、酷い維新政治がつづく。コロナ禍で腰痛が悪化した、私の気持ちが「ようつう」じたのか、だんだん回復してきた。フェイスブックで紹介した「素粒子」を再携しておきたい。

昨日 28 日の朝日夕刊「素粒子」から

さあ夏祭り、と思いきや。青森ねぶた祭、秋田竿燈、新潟・長岡大花火、岐阜・郡上踊り、京都・祇園祭の山鉾巡行、大阪天神祭の船渡御、高知・よさこい祭り、博多祇園山笠の舁き山は中止。秋予定にしてた東京・隅田川花火までも。なのに五輪は観客を入れて、開幕まで 25 日。×× 首都圏に第 5 波の兆し。五輪ありきの「宣言解除」で懸念された事態が見えてきた。

(2021 年 7 月 1 日)